

令和 5 年 6 月 4 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20H01463

研究課題名（和文）中国の世界秩序観の歴史的変遷と現在

研究課題名（英文）Historical Transition of the Concept of Chinese World Order

研究代表者

川島 真（Kawashima, Shin）

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：90301861

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 8,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、中国の有する世界観、世界認識を中国の認識に即して歴史的に理解し、またその変容の理由や背景を明らかにしようとするものである。また、この研究を遂行する過程で若手研究者の発信の機会を提供していくことを企図した。コロナ禍によって研究活動は大幅に抑制されたが、この研究により、先行研究とは異なる変容時期や各々の変容の原因や連続性について考察を深められた。若手研究者の発信の機会としては日常的な研究会のほか、アメリカのAASにパネルを出すなど国際的発信も行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中国の対外観については、従来、19世紀末から20世紀初頭にかけての冊封朝貢から近代外交への変容、第二次世界大戦後の近代外交から社会主義外交への変容が知られてきた。コロナの影響で研究の遂行が制限されたが、本研究を通じて、19世紀中葉から総理衙門の形成、また冊封朝貢関係の再編期にも大きな変容があること、また19世紀末からの変容過程については北京議定書による外務部の形成のほか、1890年代から生じた中央-地方間の齟齬が考察された。20世紀中葉についても、中国共産党政権成立初期の対外関係を担う新たな集団や政策の形成過程が次第に解明され、20世紀前半の近代外交が否定される過程を示す事例研究が行われた。

研究成果の概要（英文）：This research project plans to explore Chinese perception of the world order historically and examine the reason and background of the change and transition of the perception. And this project pays attention to support young scholars to make presentation for the world in English and other foreign languages. Covid-19 influences the progress of this project as scheduled, however, this project provides fruitful opportunities to consider the change and transition of the perception to examine their reason and background and continuity beyond the change and transition. And for younger scholars, this project holds ordinal research meetings and organizes the panel session AAS 2023 in Boston that some younger scholars make presentation on Chinese perception of the world order in 19c.

研究分野：アジア政治外交史、中国近現代外交史、東アジア国際関係史

キーワード：冊封朝貢 互市 総理衙門 外務部 近代外交（中国） 独立自主の外交 平和友好五原則

## 1. 研究開始当初の背景

本研究の問いは、19世紀以来の中国における世界秩序観がどのように形成、変化されてきたのか、また既存の研究で指摘されているいくつかの大きな転換点について、それがどのような過程で進行したのか、何が変化し、何が連続したのかということにある。さらに、そのような歴史的蓄積がどのように現在の中国の世界秩序観を導いているのか、あるいは現在の中国での歴史的背景の説明にどのような恣意性や意図があるのかということもまた大きな問いである。

これらの問いに対して事例研究をおこなうことで解を導くのが本研究の課題である。中国の世界秩序観については既存の研究が少なからずあり、また申請者や研究分担者もそれぞれ取り組んできた課題である。そしてすでに19世紀の世界秩序認識の変容、20世紀前半の近代国際社会への順応の重要性、中華人民共和国成立前後の転換、さらには胡錦濤政権後半から習近平政権期にかけての変容と伝統的視点への回帰などが指摘されてきた。特に、「19世紀の王朝の時代 / 20世紀前半の近代国家の時代 / 人民中国の時代」の三層構造を基礎とし、その上で昨今の変容を理解するということが、一定の多様性の下に、いわば定式化している面もある。しかし、中国の台頭が顕著になり、また中国自身が自らの世界秩序認識を調整し、歴史を正当化の資源として用いる中で、今一度、19世紀以来の中国における世界秩序観の変容を考察する必要が生じた。

## 2. 研究の目的

本研究の主要な目的は、上記の学術的な問いに対して、歴史研究者と現代中国研究者、また思想(史)研究者と外交(史)研究者が協働することで、三層構造の結節点の連続性と変容を描き出すことにより、通史的な解を与え、合わせてそれと関連付けながら現状分析をおこなうことにある。また次の目的としては、この論点を世界の研究者、また若手研究者と共有し、論点や議論を内外に発信することにある。

この三層間の断層は、中国外交史研究の根本的問題である。19世紀後半の研究と清末から民国期の近代外交との間の断層、そして民国期の外交と人民共和国の外交研究との間の断層は大きくなるばかりである。その時期に変容が見られたことは確かであろうが、その変容のプロセスや原因、またそこに見られる連続性などが十分に解明されていないのである。また、三層の他にまだ見えていない変容があるかもしれない。これらの問題に取り組むのが本研究の主たる目的である。

## 3. 研究の方法

中国の世界観と対外政策については、一般に19世紀の王朝としての秩序観と政策、20世紀前半の近代国家としての世界認識と政策、1949年以降の社会主義国、発展途上国としての世界認識と政策という三層構造の下に理解されてきた。しかし、三層構造があるところまでは解明されても、それらがいかに機能したのか、そしてそれぞれの変容期にどのような議論がなされたのかといったことについては教科書的な理解以上に十分に掘り下げられてはいない。

具体的には、第一に、19世紀から20世紀への変容過程、そこに見られる連続性と変容が康有為の「列国並立」や、嚴復らの社会進化論で比較的単純に説明され、十分な事例研究が

理念、政策ともに積まれていない。第二に、1949年前後については断絶性が強調されすぎ、民国期と人民共和国期の連続性などがほとんど検討されないままになっている。その結果、第三に中国の世界秩序観は上記の三層が分断された状況で研究されているという問題点である。さらに、現在の中国の世界秩序認識と政策もまたこれらの三点とも関わる課題であることはいうまでもない。

本研究の課題は目新しいものではないかもしれない。しかし、以下のような独自性、創造性を持つ。第一に通時性である。19世紀から現状までを視野に入れる研究はほとんどない。第二に理念と政策の双方を見る点である。これはディシプリンを横断することではじめて可能となる。第三に、申請者や研究分担者のこれまでの蓄積である。十分な蓄積があるからこそ、連続性と変容、現状との関わりなどを論じることが可能になる。

本研究は申請者と研究分担者の4名が役割分担に基づいて、それぞれが事例研究を実施し、変容の理由と過程、そして変容前後の連続性などについて考察するとともに、新たな分岐点やその背景の把握を目指した。その上で、現状分析を常に行って過去との関連について分析を継続的に行った。それらの成果は以後の共同研究に継続される。

#### 4. 研究成果

本研究は、中国の有する世界観、世界認識を中国の認識に即して理解し、またその変容の理由や背景を明らかにし、他方で研究を遂行する過程で若手研究者の発信の機会を提供していくことを企図した。コロナ禍によって研究活動は大幅に抑制されたが、研究会活動（東アジア国際関係史研究会）では、日本、中国などの若手研究者によるそれぞれの時期の実証的な研究を推進した。そして、博士課程研究者を中心とした清朝期の対外関係、対外認識をめぐるパネルを2023年3月にボストンで開催されたAASに出すことができた。中国の対外観については、従来、19世紀末から20世紀初頭にかけての冊封朝貢から近代外交への変容、第二次世界大戦後の近代外交から社会主義外交への変容が知られてきた。本研究を通じて、19世紀中葉から総理衙門の形成、また冊封朝貢関係の再編に至る時期にも大きな変容過程があること、また19世紀末からの変容過程については清朝中央と地方の総督ら地方大官との間に対外政策の面での齟齬が生じていることや20世紀初頭に主要地方大官が死を迎えていることの影響などが考察された。20世紀中葉の変容過程については、中国共産党政権成立初期の対外関係を担う集団の形成や政策の形成過程が次第に解明され、また本研究を通じて20世紀前半の近代外交がいかに否定されていくのかということに関する事例研究が本研究を通じて行われた。だが、コロナ禍の影響もあって本研究が本来計画していた海外での資料調査などがほとんどできず、また中国が国内での文書館や図書館への管理統制を強化する中で、研究遂行が予定通りには進まなかったために、事例研究をいくつか積み上げるにとどまっている。他方、胡錦濤政権以降の変容過程、特に習近平の対外理念、政策については、いくつかの書籍を刊行するなどしてその形成過程、内容などについて議論することができた。これらの成果を基礎に新たな共同研究に結びつけることを目指す。

全体としてコロナ禍によって史料調査、海外との交流が大きく抑制されたため、所期の目標が十分に達成されたわけではないが、それでも実証研究をある程度蓄積でき、またオンラインでの研究会などを通じて若手研究者に報告の場を提供し、かつ最後に国際会議に若手研究者中心のパネルを出すことができたことは一つの成果であったと考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計57件（うち査読付論文 12件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 17件）

1. 著者名 川島真	4. 巻 -
2. 論文標題 習近平政権の歴史政策：馬工程と四史	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本国際問題研究所編『歴史系検討会論文集』日本国際問題研究所	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川島真	4. 巻 -
2. 論文標題 戦後初期中国における対日講和観 1945～1947年を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 川島真・細谷雄一編著『サンフランシスコ講和と東アジア』東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 179-215
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川島真	4. 巻 -
2. 論文標題 『戦争遺留問題』と対日新思考 江沢民・胡錦濤政権期の対日歴史政策	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 川島真・岩谷将編著『日中戦争研究の現在 - 歴史と歴史認識問題』東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 39-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川島真	4. 巻 -
2. 論文標題 冷戦下台湾の中国研究とアメリカフォード財団による中央研究院近代史研究所支援	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 森口〔土屋〕由香・川島真・小林聡明編著『文化冷戦と知の展開 アメリカの戦略・東アジアの論理』京都大学学術出版会	6. 最初と最後の頁 25-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川島真	4. 巻 4巻3号
2. 論文標題 グローバルサウスに働きかける中国 中国の描く世界と米中「対立」像	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Security Studies 安全保障研究	6. 最初と最後の頁 97-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shin Kawashima	4. 巻 -
2. 論文標題 China as "Empire": Perceptions of the Tributary System and the Boundaries of China in the Twentieth Century	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Japan Institute of International Affairs / Resource Library	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 茂木敏夫	4. 巻 16
2. 論文標題 中国文化世界における秩序形成	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 研究 中国	6. 最初と最後の頁 13-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Aoyama Rumi	4. 巻 11
2. 論文標題 China's dichotomous BeiDou strategy: led by the party for national deployment, driven by the market for global reach	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Contemporary East Asia Studies	6. 最初と最後の頁 282 ~ 299
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/24761028.2023.2178271	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青山瑠妙	4. 巻 711
2. 論文標題 「陣営化」する世界と中国のグローバル・サウス政策	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 37-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rumi Aoyama	4. 巻 Vol. 23, No. 1
2. 論文標題 Stability and Fragility in Japan-China Relations: China's Pivotal Power and Japan's Strategic Leverage	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 The China Review	6. 最初と最後の頁 187-211
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青山瑠妙	4. 巻 41巻1号
2. 論文標題 不確実性のなかの戦争と平和：中国の台湾政策と日本	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ディフェンス	6. 最初と最後の頁 62-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rumi Aoyama	4. 巻 -
2. 論文標題 China's Mediation Diplomacy in Myanmar	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国際問題研究所	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Rumi Aoyama	4. 巻 -
2. 論文標題 Will Tokyo 's IPEF membership mix with Japan-China relations?	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 East Asia Forum	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青山瑠妙	4. 巻 -
2. 論文標題 中国の調停外交：グローバル・サウスにおける中国の影響力の拡張	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本国際問題研究所編『習近平政権研究』日本問題研究所	6. 最初と最後の頁 151-168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Rumi Aoyama	4. 巻 -
2. 論文標題 China, Japan, and Economic Integration in Asia: Asymmetric Threat Perception and FTAs	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Chien-Wen Kou, Chiung-Chiu Huang, Brian Job, The Strategic Options of Middle Powers in the Asia-Pacific, Routledge	6. 最初と最後の頁 215-232
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 川島真	4. 巻 3巻3号
2. 論文標題 中央アジアの国々の安全保障観 中国の視点	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 安全保障研究	6. 最初と最後の頁 57-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川島真	4. 巻 -
2. 論文標題 西太平洋の国際関係と台湾	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北岡伸一編『西太平洋連合のすすめ』東洋経済新報社	6. 最初と最後の頁 398-434
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川島真	4. 巻 70
2. 論文標題 「和解」の観点から見た戦後日中・日台歴史問題 1945-2008	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際社会科学	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shin Kawashima	4. 巻 28-2
2. 論文標題 Historical Policy of the Xi Jinping Administration: “Four Histories” and “Ma Project”	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asia-Pacific Review	6. 最初と最後の頁 57-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13439006.2022.2026634	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 茂木敏夫	4. 巻 72巻1号
2. 論文標題 普遍と特殊 近現代東アジアにおける秩序構想の語り方(下)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京女子大学紀要論集	6. 最初と最後の頁 93-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 茂木敏夫	4. 巻 -
2. 論文標題 近現代東アジアにおける王権の磁場	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 伊東貴之編『東アジアの王権と秩序 思想・宗教・儀礼を中心として』汲古書院	6. 最初と最後の頁 765-778
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 茂木敏夫	4. 巻 -
2. 論文標題 中国的秩序の理念 その特徴と近現代における問題化	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 李曉東・李正吉編『論集 北東アジアにおける近代的空間 その形成と影響』明石書店	6. 最初と最後の頁 289-312
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 茂木敏夫	4. 巻 -
2. 論文標題 中國式秩序の理念 其特征及在近現代的問題化	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 李曉東・李正吉主編『東北亞近現代空間的形成及其影響』秀威資訊科技股份有限公司(台北)	6. 最初と最後の頁 226-245
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青山瑠妙	4. 巻 -
2. 論文標題 ミャンマーにおける中国の調停外交	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 (国際問題研究所)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青山瑠妙	4. 巻 972
2. 論文標題 習近平体制の台湾政策	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 交流（日本台湾交流協会）	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 青山瑠妙	4. 巻 Autumn(37)
2. 論文標題 中国外交における「内政不干渉」原則：固持と変容の間に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 論究ジュリスト	6. 最初と最後の頁 16-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rumi Aoyama	4. 巻 13(3)
2. 論文標題 Lost Chances for Emotional Reconciliation between China and Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 East Asian Policy	6. 最初と最後の頁 57-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1142/S1793930521000209	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Rumi Aoyama	4. 巻 -
2. 論文標題 Japan Walks on a Tightrope with its China Policy	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 East Asia Forum	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 青山瑠妙	4. 巻 27 (5)
2. 論文標題 中国の「戦狼外交」 内政が外交に色濃く反映される時代の到来	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 治安フォーラム	6. 最初と最後の頁 51-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石田徹、岡本隆司	4. 巻 -
2. 論文標題 交隣と信義 通信から欽差へ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岡本隆司編『交隣と東アジア 近世から近代へ』名古屋大学出版会	6. 最初と最後の頁 111-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡本隆司	4. 巻 -
2. 論文標題 琉球の「兩屬」から朝鮮の「兩載」へ 「自為一國」をめぐる一考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岡本隆司編『交隣と東アジア 近世から近代へ』名古屋大学出版会	6. 最初と最後の頁 210-231
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡本隆司	4. 巻 -
2. 論文標題 事大と列強のはざままで 「大君主」の興亡	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岡本隆司編『交隣と東アジア 近世から近代へ』名古屋大学出版会	6. 最初と最後の頁 263-293
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡本隆司	4. 巻 -
2. 論文標題 清朝をめぐる国際関係	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 荒川正晴・大黒俊二・小川幸司・木畑洋一・富谷至・中野聡・永原陽子・林佳世子・弘末雅士・安村直己・吉澤誠一郎編『岩波講座 世界歴史12 東アジアと東南アジアの近世 15～18世紀』岩波書店	6. 最初と最後の頁 111-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川島真	4. 巻 -
2. 論文標題 中国から見た明治維新認識	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 マシュー・オーガスティン編『明治維新を問い直す 日本とアジアの近現代』九州大学出版会	6. 最初と最後の頁 41-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三谷博・川島真	4. 巻 -
2. 論文標題 アヘン戦争・明治維新期の世界史 1840-95年	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 南口信吾編著『国際関係史から世界史へ』ミネルヴァ世界史叢書第3巻、ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 11-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川島真	4. 巻 -
2. 論文標題 現代中国政治の『強靱性(レジリエンス)』 胡錦濤・習近平政権への視座	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本比較政治学会編『民主主義の脆弱性と権威主義の強靱性』、日本比較政治学会年報第22号、ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 123-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shin Kawashima	4. 巻 27
2. 論文標題 The Four Principles that Formed the Basis of Friendly Relations between Japan and China: The China Policy of the Nakasone Yasuhiro Government	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Asia-Pacific Review	6. 最初と最後の頁 80-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13439006.2020.1775421	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shin Kawashima	4. 巻 -
2. 論文標題 Chapter 5, China's Maritime Strategy and the Japan-US Alliance	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Nakasone Peace Institute eds., KITAOKA Shinichi and KUBO Fumiaki supervised, The Japan-US Alliance of Hope: Asia-Pacific Maritime Security, Japan Publishing Industry Foundation for Culture	6. 最初と最後の頁 105-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Shin Kawashima	4. 巻 Vol.3 No.3-4
2. 論文標題 Chinese and Taiwanese Perspectives on Japan's Racial Equality Proposal	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japan Review	6. 最初と最後の頁 28-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shin Kawashima	4. 巻 Vol.3 No.3-4
2. 論文標題 China's Foreign Policy Objectives and Views on the International Order: Thoughts Based on Xi Jinping's Speech at the 19th National Congress	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japan Review	6. 最初と最後の頁 54-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川島真	4. 巻 -
2. 論文標題 中国の見る世界秩序と地域秩序	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東大社研現代中国研究拠点編『現代中国ゼミナール』東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 5-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川島真	4. 巻 -
2. 論文標題 外国史研究としての中国近現代史研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 飯島渉編『大国化する中国の歴史と向き合う』研文出版	6. 最初と最後の頁 159-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 茂木敏夫	4. 巻 71-2
2. 論文標題 普遍と特殊 近現代東アジアにおける秩序構想の語り方(上)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 論集(東京女子大学紀要)	6. 最初と最後の頁 65-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青山瑠妙	4. 巻 225
2. 論文標題 「Westlessness」(?)と中国の台頭: 米・中・欧州の攻防	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 世界平和研究	6. 最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青山瑠妙	4. 巻 855
2. 論文標題 変容する国際秩序・転機を迎えた中国の外交	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『経済倶楽部講演録』東洋経済新報社	6. 最初と最後の頁 48-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rumi Aoyama	4. 巻 -
2. 論文標題 Can a Xi charm offensive win over Japan?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 East Asia Forum	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青山瑠妙	4. 巻 2021-2
2. 論文標題 中国とバイデン新政権との新しい「競・合関係」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 三田評論	6. 最初と最後の頁 46-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡本隆司	4. 巻 -
2. 論文標題 中国(1) 史学から俯瞰する	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 近藤孝弘編『歴史教育の比較史』名古屋大学出版会	6. 最初と最後の頁 11-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡本隆司	4. 巻 -
2. 論文標題 世界のなかの日本 一三世紀～現代	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 上島享・吉田一彦編『日本宗教史2世界のなかの日本宗教』吉川弘文館	6. 最初と最後の頁 64-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計21件 (うち招待講演 12件 / うち国際学会 14件)

1. 発表者名 Shin Kawashima
2. 発表標題 Japan- China Relations After 50 Years(1972-2022): Past, Present, & Future...?
3. 学会等名 A Special Indiana University / University of Tokyo Joint Webinar (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川島真
2. 発表標題 明治大正時期的日本政府所看到的「金門島」
3. 学会等名 金門学国際学術研討会「解嚴三十：戦地与後戦地的金門研究」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡本隆司
2. 発表標題 東アジアの近代と中国の成立
3. 学会等名 昭和女子大学国際文化研究所主催「中国をめぐる国際関係と対中国観の変遷 第1回シンポジウム 近代以降の周辺諸国の対中国観」
4. 発表年 2022年



1. 発表者名 岡本隆司
2. 発表標題 琉球の「兩属」を再考する
3. 学会等名 南山大学アジア・太平洋センター主催・総合政策学部共催講演会「東アジアにおける近代ヨーロッパ国際法の受容による伝統的秩序の変容 日本と中国の受容と抵抗」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Takashi Okamoto
2. 発表標題 Rethinking the "Dual Dependence" of the Ryukyu Kingdom
3. 学会等名 Lent Term East Asia Seminar Series (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shin Kawashima
2. 発表標題 How Strong is the Taiwan-US-Japan Triangle?
3. 学会等名 Ifri Center for Asian Studies Fall Webinar 2021 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shin Kawashima
2. 発表標題 Recent Sino-Japanese Relations and difficulties for cooperation
3. 学会等名 Asia-China Dialogue 2021: Toward A Peaceful and Brighter Future, 現代中国学会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shin Kawashima
2. 発表標題 Recent Sino-Japanese Relations and difficulties between them
3. 学会等名 「日本新政府発足以降の日・米・韓協力」韓国世宗研究所（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川島真
2. 発表標題 探索“新時代”的中日関係：課題与展望
3. 学会等名 復旦大学日本研究中心第31届国際学術研討会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青山瑠妙
2. 発表標題 中国の対米外交：グレーゾーン作戦を中心に
3. 学会等名 日本政治学会2021年度研究大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Rumi Aoyama
2. 発表標題 Diplomatic History of Japan-China Relations: Navigating between Power Balance, Economic Interests and Domestic Politics
3. 学会等名 Strategic Japan: The Future of Japan-China Relations（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡本隆司
2. 発表標題 二つの「中国」 歴史的にみる東アジアの帝国秩序
3. 学会等名 日本国際政治学会2021年度研究大会部会「「帝国」の復活か、残影か 歴史上の帝国秩序と現在」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡本隆司
2. 発表標題 近代日本の中国観 中国「ギルド」論の系譜
3. 学会等名 東北大学大学院国際文化研究科主催：国際シンポジウム「近代日本の中 国学の光と影」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川島真
2. 発表標題 従日本の角度看“一国両制”与香港
3. 学会等名 全国港澳研究会“紀念香港基本法頒布“30周年” 国際研討会（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shin Kawashima
2. 発表標題 China-DPRK Relations under/after corona pandemic
3. 学会等名 CAST and SIGNAL joint symposium on “Regional security as China’s presence grows in the Middle East”（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shin Kawashima
2. 発表標題 日中關係の現状与課題
3. 学会等名 Session One: International and Regional Situation and China-Japan Relations in the Post-epidemic Era-International and Regional Situation-China-Japan Relations (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shin Kawashima
2. 発表標題 Japan's Diplomatic Policy for China under the Covid-19 Pandemic
3. 学会等名 NIICE International Conference on "Understanding CHINA" (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 川島真
2. 発表標題 新時代の中日關係：課題与展望
3. 学会等名 復旦大学日本研究中心第30届国際學術研討会成立 30 周年紀念慶典 (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計25件

1. 著者名 川島真編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 356
3. 書名 ようこそ中華世界へ	

1. 著者名 川島真・岩谷將編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 360
3. 書名 日中戦争研究の現在 歴史と歴史認識問題	

1. 著者名 川島真・細谷雄一編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 336
3. 書名 サンフランシスコ講和と東アジア	

1. 著者名 森口(土屋) 由香、川島 真、小林 聡明	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 466
3. 書名 文化冷戦と知の展開	

1. 著者名 川島 真、小嶋 華津子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 192
3. 書名 UP plus 習近平の中国	

1. 著者名 川島 真、21世紀政策研究所	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 272
3. 書名 習近平政権の国内統治と世界戦略	

1. 著者名 蔡東傑、韓碩熙、青山瑠妙主編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 五南圖書出版公司(台湾)	5. 総ページ数 224
3. 書名 中國周邊外交 台日韓三方比較新視野	

1. 著者名 岡本 隆司	4. 発行年 2022年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 326
3. 書名 明代とは何か	

1. 著者名 岡本 隆司	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 246
3. 書名 曾国藩 「英雄」と中国史	

1. 著者名 岡本 隆司	4. 発行年 2022年
2. 出版社 新潮社	5. 総ページ数 352
3. 書名 悪党たちの中華帝国	

1. 著者名 川島真・益尾知佐子・渡辺恒雄・相澤伸広	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央公論ダイジェスト	5. 総ページ数 40
3. 書名 強権中国の野望	

1. 著者名 波多野 澄雄、赤木 完爾、川島 真、戸部 良一、松元 崇	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新潮社	5. 総ページ数 272
3. 書名 決定版 大東亜戦争（上）	

1. 著者名 戸部 良一、赤木 完爾、庄司 潤一郎、川島 真、波多野 澄雄、兼原 信克	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新潮社	5. 総ページ数 304
3. 書名 決定版 大東亜戦争（下）	

1. 著者名 川島 真、岩谷 將	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 360
3. 書名 日中戦争研究の現在	

1. 著者名 川島 真、細谷 雄一	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 336
3. 書名 サンフランシスコ講和と東アジア	

1. 著者名 青山瑠妙著, 李世暉訳	4. 発行年 2021年
2. 出版社 呉南図書出版	5. 総ページ数 -
3. 書名 中国的亞洲外交	

1. 著者名 岡本隆司編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 380
3. 書名 交隣と東アジア	



1. 著者名 川島 真、21世紀政策研究所	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 248
3. 書名 現代中国を読み解く三要素	

1. 著者名 田中 明彦、川島 真	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 1056
3. 書名 20世紀の東アジア史	

1. 著者名 川島 真、清水 麗、松田 康博、楊 永明	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 340
3. 書名 日台関係史 1945-2020 増補版	

1. 著者名 川島 真、森 聡	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 264
3. 書名 UP plus アフターコロナ時代の米中関係と世界秩序	

1. 著者名 岡本 隆司	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 238
3. 書名 「中国」の形成 現代への展望	

1. 著者名 岡本 隆司	4. 発行年 2020年
2. 出版社 P H P 研究所	5. 総ページ数 355
3. 書名 教養としての「中国史」の読み方	

〔産業財産権〕

〔その他〕

川島真研究室 <a href="https://www.kawashimashin.com/">https://www.kawashimashin.com/</a>
---

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	茂木 敏夫  (Motegi Toshio)  (10239577)	東京女子大学・現代教養学部・教授   (32652)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	青山 瑠妙  (Aoyama Rumi)  (20329022)	早稲田大学・国際学院 (アジア太平洋研究科)・教授    (32689)	
研究分担者	岡本 隆司  (Okamoto Takashi)  (70260742)	京都府立大学・文学部・教授    (24302)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
英国	University of Cambridge			
米国	University of Delaware			